

1 基礎分野

科目名	単位数	時間数
論理学	1	15
哲学	1	30
文章構成法	1	15
情報科学	1	30
英語	1	30
異国生活と文化	1	30
社会学	1	30
教育学	1	30
文学	1	30
心理学	1	30
人間関係論	1	30
生命倫理	1	30
健康と環境	1	15
保健体育	1	30

授業科目	論理学	担当講師	山田 健二	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(15)
<p>授業のねらい</p> <p>感情や偏見を廃して事実と推論規則のみに基づいて正しい議論を目指そうというのが「論理学」だが、現実問題を「論理的」に扱うのは実は難しい。「正しい議論」を妨げる不合理的要因の力はとても強く、信念は簡単に感情にとらわれ、偏見にゆがめられ、かたくななものになる。不合理的な信念がいかにかたくなであるか、この授業ではその実例をいくつか確認していく。自分の信念もまた同様に不合理でかたくなであり得ること、そのことを自覚して自分を客観視する態度を身につけることがこの授業の目的である。</p>					
<p>授業計画</p> <p>各回の内容(予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入(宗教的理由による輸血拒否) 2. 自己決定権と依存行動(タバコを例に) 3. 集団心理 4. 自己正当化とカルト 5. 陰謀論、フェイク、デマ 6. 反ワクチン論 7. 心の拠り所としてのレジリエンス 8. 確認試験 					
<p>授業方法</p> <p>ビデオ教材とプリントを使用して講義を行う。毎回小レポートとして、感想を数行にまとめて提出してもらう。</p>					
評価方法	小レポートと最終の確認試験で総合的に判断する				
教科書 参考書 など	プリントを配布する				
備考					

授業科目	哲 学	担当講師	山田 健二	対象学年	3年生
				単位数(時間)	1(30)
<p>授業のねらい</p> <p>哲学にはいろいろな意味があるが、本来は論理学と同じ起源をもち、考える価値のあることを事実(と推論規則)のみにしたがって、偏見や感情にとらわれず、平易で明晰な言葉で「正しく」考えようとする取り組みのことを言う。この授業では日常の重要な主題を具体的に取り上げ、事実に基づき、複数の視点から分析していくことを試みる。さまざまな問題を、当たり前ですますことなく、まじめに考える態度を身につけることを目的とする。</p>					
<p>授業計画</p> <p>各回の内容(予定)</p> <p>1. 広告とプロパガンダ 2. なぜ偏見はなくなるのか 3. 嘘についてはいけないか 4. 死刑存廃論 5. 臓器移植と医療の公正性 6. 女性の権利としての中絶 7. 医薬品高騰問題 8. お金で買っていけないものはあるか</p> <p>9. 安楽死と尊厳死 10. 遺伝子診断 11. 人体実験 12. 動物の権利 13. 自然保護思想 14. フェミニズム 15. 確認試験</p>					
<p>授業方法</p> <p>ビデオ教材とプリントを使用して講義を行う。毎回小レポートとして、感想を数行にまとめて提出してもらう。</p>					
評価方法	毎回の小レポートと最終の確認試験で総合的に評価する				
教科書 参考書 など	プリントを配布する				
備考					

授業科目	文章構成法	担当講師	野田 孝夫	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(15)
<p>授業のねらい</p> <p>社会生活においては、自己の考えを適切に表現できることが求められる。看護場面においては、看護記録、看護研究論文、他職種との情報交換、患者や家族への対応などで相手に伝わるよう、論理的に、かつ簡潔に表現することが必要となる。そのため、自己の考えを論理的に他者に伝わるように文章で表現できる力を養うことを目的とする。</p> <p>1 レポートや論文等の理論的な文章を書く際の、文章作成上の基本的なルールを身につける。 2 私的な文章と公的な文章の違いを理解し、目的による文章の書き分けができる。 3 長文を読んで、事実と自己の考えを区別し、文章構成を考え、自分の意見(考え)を書くことができる。</p>					
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 論理的な思考力とは 2 書くことの抵抗を取り除く 3 自分の考えをどのように構成していくか 4 自分の考えを確実に読み手に伝えるには 5 ピラミッドの基本パターンについて 6 グループ討議のすすめ方 7 レポートの書き方 					
<p>授業方法</p> <p>グループ討議の導入や文章(感想文・意見文など)を書く機会を多く取り入れる</p>					
評価方法	レポート(小論文)提出				
教科書 参考書 など	これなら書ける!文章表現の基礎の基礎 山本裕子・本間妙・中林律子著 ココ出版				
備考					

授業科目	情報科学	担当講師	後藤 隆司	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい					
<p>看護実践にコンピュータの活用ができるようになるために、情報処理の基本技術を身につける。</p>					
授業計画					
<p>I コンピュータリテラシーとセキュリティ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 パソコンに関する基礎知識 2 インターネットに関する基礎知識 3 情報の定義と特徴 4 情報化社会 <p>II 看護と情報処理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健医療と情報 2 看護と情報 3 医療における情報システム <p>III コンピュータの活用の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Excelによる統計処理 2 ワードプロソフトの使い方 3 プレゼンテーションの実際 					
授業方法					
講義と演習					
評価方法	実技、授業への参加態度				
教科書 参考書 など	Office2016基本演習 日経BP社 系統看護学講座 別巻 「看護情報学」 医学書院				
備考					

授業科目	英 語	担当講師	小林恭子	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
<p>授業のねらい</p> <p>看護現場に必要な会話表現、健康や医療に関する単語・表現を身につける。</p>					
<p>授業計画</p> <p>目標の取得単語数、表現量が多いので、特に毎日の集中力を要求し、興味の持続をはかる。</p>					
<p>授業方法</p> <p>テープを聞き、練習(聞きとり・発音)単語言い回しの説明。</p>					
評価方法	授業内小テスト				
教科書 参考書 など	English for Nurses 山中マーガレット 編著 朝日出版社				
備考					

授業科目	異国生活と文化	担当講師	ジームス・リックツ	対象学年	2年生
			亀田 裕介 張 猛	単位数(時間)	1(30)
授業のねらい					
国際社会に対して対応できる広い視野がもてるようになるために異文化を知る。					
授業計画					
時間	学習内容			担当	配点
10	中国圏の生活と文化			張 猛	30
10	英語圏の生活と文化			ジームス・リックツ	35
8	ロシアの生活と文化			亀田 裕介	35
授業方法					
講義・話し合い 特徴的な行事・遊び・福祉 習慣・歴史・社会情勢 その他、具体的な行事を通して交流する。					
評価方法	記述試験 授業への参加態度 実技を通じた制作品(ない場合はレポート)				
教科書 参考書 など	なし				
備考					

授業科目	社会学	担当講師	佐藤 義信	対象学年	1年生																		
				単位数(時間)	1(30)																		
<p>授業のねらい</p> <p>私たちは変転著しい「現代」を前に、しばしば立ち往生する。その方向を見失うからであろう。進路を予見し前進するためにはこの社会の現状と仕組みそしてその原動力を知らなければならないと思う。社会学は「人間」「社会」「文明」をその原点にさかのぼって考究し、現代の全貌を現実的に把握しようとする学問である。「歴史」と対話し今日に生かすことも欠かせないであろう。本講義ではこれらの基本認識のもと、近未来の職分となる看護医療社会を中心に、個人が”いのち”をいただく家族社会から、ダイナミックに激変する国際政治までの社会学の課題を広く以下の要目に添いながら取り扱いたい。</p>																							
<p>授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>1 社会学…「自分探し」と社会、隣接領域他</td> <td>10 統治機構と国民の権利…「自由権と社会権」</td> </tr> <tr> <td>2 近代と現代…「プロテスタンティズム」他</td> <td>11 都市問題…城壁・駅、市民、精神的疎遠社会</td> </tr> <tr> <td>3 家族形態と家族の変化…「少子高齢化」他</td> <td>12 情報社会…農業革命、産業革命、IT革命他</td> </tr> <tr> <td>4 「法律婚と事実婚」…婚姻・扶養・相続他</td> <td>13 職場生活…サービスの経済化、「女性の進出」</td> </tr> <tr> <td>5 ヴィクトリア時代とF/ナイチンゲール</td> <td>14 「生活の質」と社会の病理…「アノミー論」</td> </tr> <tr> <td>6 死生観…「生と死を考える」、科学と宗教</td> <td>15 グローバル化と格差の拡大…「民族主義」</td> </tr> <tr> <td>7 宗教と英国「スピリチュアリズム」の教訓</td> <td>16 国際社会と法秩序…超大国と「勢力均衡」</td> </tr> <tr> <td>8 医療と福祉…老いと病気、家族介護の困難さ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 日本の社会保障…国家と政治「憲法25条」</td> <td></td> </tr> </table>						1 社会学…「自分探し」と社会、隣接領域他	10 統治機構と国民の権利…「自由権と社会権」	2 近代と現代…「プロテスタンティズム」他	11 都市問題…城壁・駅、市民、精神的疎遠社会	3 家族形態と家族の変化…「少子高齢化」他	12 情報社会…農業革命、産業革命、IT革命他	4 「法律婚と事実婚」…婚姻・扶養・相続他	13 職場生活…サービスの経済化、「女性の進出」	5 ヴィクトリア時代とF/ナイチンゲール	14 「生活の質」と社会の病理…「アノミー論」	6 死生観…「生と死を考える」、科学と宗教	15 グローバル化と格差の拡大…「民族主義」	7 宗教と英国「スピリチュアリズム」の教訓	16 国際社会と法秩序…超大国と「勢力均衡」	8 医療と福祉…老いと病気、家族介護の困難さ		9 日本の社会保障…国家と政治「憲法25条」	
1 社会学…「自分探し」と社会、隣接領域他	10 統治機構と国民の権利…「自由権と社会権」																						
2 近代と現代…「プロテスタンティズム」他	11 都市問題…城壁・駅、市民、精神的疎遠社会																						
3 家族形態と家族の変化…「少子高齢化」他	12 情報社会…農業革命、産業革命、IT革命他																						
4 「法律婚と事実婚」…婚姻・扶養・相続他	13 職場生活…サービスの経済化、「女性の進出」																						
5 ヴィクトリア時代とF/ナイチンゲール	14 「生活の質」と社会の病理…「アノミー論」																						
6 死生観…「生と死を考える」、科学と宗教	15 グローバル化と格差の拡大…「民族主義」																						
7 宗教と英国「スピリチュアリズム」の教訓	16 国際社会と法秩序…超大国と「勢力均衡」																						
8 医療と福祉…老いと病気、家族介護の困難さ																							
9 日本の社会保障…国家と政治「憲法25条」																							
<p>授業方法</p>																							
評価方法	記述式筆記試験+提出課題+ノート筆記の提出																						
教科書 参考書 など	「社会学がわかる事典」森下伸也 他 日本実業出版																						
備考																							

授業科目	教育学	担当講師	佐藤 義信	対象学年	3年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい 人間形成に必要な不可欠な教育の本質を学び、生命の尊厳と共生について探求する。					
授業計画 1 教育とは何か ～〈education〉の語源～ 2 教育を成り立たせるもの ～『教育力』(齋藤孝著)を読む～ 3 教育の営み ～学校教育・社会教育・家庭教育そして生涯教育～ 4 教育の諸相と課題 イ、レディネス ロ、諺(格言)に学ぶ ハ、“語源、カタカナ語”考 ニ、寺子屋・塾、国民国家の教育 ホ、『二十四の瞳』と教育 ヘ、“タルムード”の知恵、思索 ト、『命(いのち)ある日に』(抜粋) チ、『「生活習慣病」がわかる本』(抜粋) リ、“いじめ・不登校、自殺”の背景 ヌ、“死の教育”の欠如(死生観・死生学) 5 「自覚的存在としての人間について」…拙稿資料 6 「道徳の根底にあるもの」…拙稿資料					
授業方法 教科書と配布資料を基に、調べと思索を加えて、課題・テーマ毎に進める。					
評価方法	レポート課題と定期試験による(他に「課題学習」も含めて)				
教科書 参考書 など	齋藤孝著『教育力』(岩波新書)				
備考					

授業科目	文学	担当講師	田村 圭一	対象学年	3年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい					
<p>広い意味で看護と関連する記述を含む文学作品は数多くある。今回の「文学」の講義は、古典的なよく知られている作品から、看護の新しい問題に触れる作品まで、看護と関連する何篇かの文学作品を取り上げる。しかし、文学作品の研究自体は授業の目的ではない。文学作品は看護に関連する記述を含むとしても、看護の専門家の記述とは見方が異なるところがあるかもしれない。看護に関連する問題を考えるときの材料として文学作品を利用し、看護の専門家とは異なる見方にも触れ、看護の学習の幅を広げることが目的である。</p> <p>授業のねらいは以下の3点にまとめられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文学作品の読解を通じ、文章を読み、理解する一般的な能力を養うこと。 2 文学作品の読解を通じ、看護と密接に関連する主題である生老病死の理解を深め、看護者に相応しい豊かな人間性を養うこと。 3 文学作品から看護に関連する問題をすくい取って、哲学的・倫理的に考察できるようにすること。また、自分の考えるところを分かりやすく、的確に表現できるようにすること。 					
授業計画					
<p>はじめに、看護の学習において文学を学ぶことの意義を簡単に論ずる。授業の中心は、1.文学作品を読み込んでいく作業と、2.作品から拾い上げられる問題をめぐって議論することである。</p> <p>第1回 看護の学習において文学作品に触れることの意義 第2回 作品1「高瀬舟」を読む 第3回 「安楽死」に関連する概念の整理 第4回 「安楽死」に関する議論の整理 第5回 「安楽死」をめぐる議論(グループ・ワーク) 第6回 作品2を読む 第7回 作品2からどのような問題を拾い上げられるか(問題2) 第8回 問題2に関する概念と議論の整理 第9回 問題2をめぐる議論(グループ・ワーク) 第10回 作品3を読む 第11回 作品3からどのような問題を拾い上げられるか(問題3) 第12回 問題3に関する概念と議論の整理 第13回 問題3をめぐる議論(グループ・ワーク) 第14回 授業の全体を振り返って、重要な論点を改めて確認する 第15回 授業で取り上げた特定の主題に関し、文章としてまとめる(試験)</p>					
授業方法					
<p>最小限度に必要な内容の説明と確認を講義の形式で実施する。 文学作品の読解と議論(ディスカッション)は演習の形式になる。</p>					
評価方法	<p>試験によって評価する。授業で取り上げた文学作品に関して、作品からどのような問題を取り上げることができ、また、自分はどのように考えるかということをもとめる論述形式・レポート作成形式の試験とする。答案作成の際に、配布資料・ノートなどを参照することを認める。評価の基準は自分の思考が分かりやすくまとめられているかどうかということである。文学作品に関する知識などを要求するものではない。</p>				
教科書 参考書 など	<p>テキストは配布する。参考書は授業のなかで指示する。 本年度は森鷗外『高瀬舟』を取り上げる(ほかに取り上げる作品は追って決定する)。</p>				
備考	<p>授業への積極的な参加、とくに、議論(ディスカッション)での活発な発言を期待します。</p>				

授業科目	心理学	担当講師	風間 恵美子	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
<p>科目の考え方</p> <p>現代の若者は社会構造の変化から人間関係が希薄であり、対人関係の中から相手を理解することが苦手な特徴がある。また、看護の対象は人間であるため、相手の気持ちを理解し、思いに寄り添う必要がある。そのため、看護師は看護の対象である人間の心理や行動の特性を理解するための基礎的な理論や知識を学ぶ必要がある。</p> <p>科目のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象である人間の心理を学ぶ。 ・人間の心理と行動の特性を理解するための基礎的知識を学ぶ。 					
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ①心理学の定義と歴史 <ul style="list-style-type: none"> ・「こころ」とは何か ・心理学の歴史 ②情動・動機づけ <ul style="list-style-type: none"> ・マズロー(Maslow)による欲求階層説 ・レヴィン(Lewin)による葛藤の3類型 ・防衛機制 2、①行動・学習 <ul style="list-style-type: none"> ・生得的行動と習得的行動 ・反射的行動の学習と自発的な行動の学習 ・さまざまな学習のかたち ②知覚・認知 <ul style="list-style-type: none"> ・錯視・錯覚・オブジェクトの認知と注意 ・記憶 3、①発達 <ul style="list-style-type: none"> ・エリクソン(E. H. Erikson)の発達課題 ②対人関係・社会 <ul style="list-style-type: none"> ・恋愛関係と友人関係 ・集団の心理 4、①パーソナリティ・知能 <ul style="list-style-type: none"> ・パーソナリティの理解、心理アセスメント ・知能の意義 ②まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・自己を知る、他者を知る 					
<p>授業方法 講義</p>					
評価方法	筆記試験				
教科書 参考書 など	参考文献：心理学 鈴木常元 他編 2014年 新曜社				
備考					

授業科目	人間関係論	担当講師	菊谷 欣広	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい					
人間関係を築けるようになるために、自己と対象の関係を理解し、自己を見つめることができる。					
授業計画					
1 C・ロジャースのクライアント中心療法より					
現象学と3つの態度条件					
2 W・グラッサーの選択理論心理学より					
1) 選択心理学とは					
2) 5つの基本的欲求(生存・愛と所属・力・自由・楽しみ)					
3) 上質世界(心のイメージ写真)					
4) 全行動(行為・思考・感情・生理反応)					
5) 外的コントロールと7つの致命的習慣					
6) 情報とトラウマ(PTSD)					
7) 身体と免疫疾患					
8) 創造性と精神疾患					
9) 怒りとうつ行動					
10) ロールプレイ					
授業方法					
講義・演習					
評価方法	記述式筆記試験				
教科書 参考書 など	講義用の資料を提示する。				
備考					

授業科目	生命倫理	担当講師	花高 了三	対象学年	1年生		
				単位数(時間)	1(30)		
<p>授業のねらい</p> <p>「生命倫理」として、人生を健やかに生き、尊厳性を保ちながら安らかな死を迎えるために、どうあるべきかについて考えてみたいと思う。</p>							
<p>授業計画</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p>1 生命倫理 (bio ethics)の流れのなかで</p> <p>2 医療をめぐる倫理原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律の尊重の原則 ・正義公正の原則 ・善行の原則 ・誠実忠誠の原則 ・無加害の原則 <p>ベルモント(レポート) 3原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人格の尊重 (Respect for persons) ・善行(有益性) (Beneficence) ・正義(公正性) (Justice) <p>3 医師の倫理 ~ヒポクラテスの誓い~</p> <p>4 看護の倫理 ~看護者の倫理綱領~</p> <p>5 医療倫理の必要性 ~延命処置と自然な死~</p> <p>6 現代の医療倫理 ~自己決定権の問題~</p> <p>7 医療倫理の今後 ~倫理委員会の重要性~</p> <p>8 「生命倫理」について2つの考え方(宗教的生命倫理と功利主義的生命倫理)</p> <p>9 「安楽死」(euthanasia) <良き死>とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Thomas More (1478~1535) 『ユートピア』(1516年) ・Francis Bacon (1561~1626) の『学問の進歩』 ・森鷗外 (1862~1922) の『高瀬舟』(大正5年) <p>10 「安楽死」をめぐる判例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋高裁判決(1962年12月22日)・6条件 ・東海大学事件(横浜地方裁判所 1995年3月26日 判決)・4条件 </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p>11 「尊厳死」(death with dignity)とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カレン事件」(1975年)について ・「生前宣言」(生前遺言) (living will)について <p>12 「自己決定権」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「輸血拒否」(1992年)の問題について <p>13 「親権者決定権」の問題</p> <p>14 「インフォームドコンセント」(informed consent)の問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な事前説明と本人の自発的な同意 <p>15 「臓器移植」と「脳死判定」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心臓死」と「脳死」 ・新しい死の定義(1981年「死の定義」の報告書) <p>16 「ターミナルケア」(terminal care)とリビングウィル(living will)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者のQOL(quality of life) ・緩和ケア(palliative care)と倫理 ・延命処置(蘇生措置・心臓蘇生法)と倫理 ・生命維持措置としての栄養補給(経鼻胃管・胃ろう経管) <p>17 「尊厳死」の今後の動向</p> <p>18 「患者の権利法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いのちと人間の尊厳を守る医療のために <p>19 「死」を取り巻く諸問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然死」・「満足死」・「平穏死」 そして「成熟死」(mature death) <p>20 「死」を見据えて、どう生きるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生と死についての断章 </td> </tr> </table>						<p>1 生命倫理 (bio ethics)の流れのなかで</p> <p>2 医療をめぐる倫理原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律の尊重の原則 ・正義公正の原則 ・善行の原則 ・誠実忠誠の原則 ・無加害の原則 <p>ベルモント(レポート) 3原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人格の尊重 (Respect for persons) ・善行(有益性) (Beneficence) ・正義(公正性) (Justice) <p>3 医師の倫理 ~ヒポクラテスの誓い~</p> <p>4 看護の倫理 ~看護者の倫理綱領~</p> <p>5 医療倫理の必要性 ~延命処置と自然な死~</p> <p>6 現代の医療倫理 ~自己決定権の問題~</p> <p>7 医療倫理の今後 ~倫理委員会の重要性~</p> <p>8 「生命倫理」について2つの考え方(宗教的生命倫理と功利主義的生命倫理)</p> <p>9 「安楽死」(euthanasia) <良き死>とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Thomas More (1478~1535) 『ユートピア』(1516年) ・Francis Bacon (1561~1626) の『学問の進歩』 ・森鷗外 (1862~1922) の『高瀬舟』(大正5年) <p>10 「安楽死」をめぐる判例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋高裁判決(1962年12月22日)・6条件 ・東海大学事件(横浜地方裁判所 1995年3月26日 判決)・4条件 	<p>11 「尊厳死」(death with dignity)とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カレン事件」(1975年)について ・「生前宣言」(生前遺言) (living will)について <p>12 「自己決定権」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「輸血拒否」(1992年)の問題について <p>13 「親権者決定権」の問題</p> <p>14 「インフォームドコンセント」(informed consent)の問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な事前説明と本人の自発的な同意 <p>15 「臓器移植」と「脳死判定」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心臓死」と「脳死」 ・新しい死の定義(1981年「死の定義」の報告書) <p>16 「ターミナルケア」(terminal care)とリビングウィル(living will)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者のQOL(quality of life) ・緩和ケア(palliative care)と倫理 ・延命処置(蘇生措置・心臓蘇生法)と倫理 ・生命維持措置としての栄養補給(経鼻胃管・胃ろう経管) <p>17 「尊厳死」の今後の動向</p> <p>18 「患者の権利法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いのちと人間の尊厳を守る医療のために <p>19 「死」を取り巻く諸問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然死」・「満足死」・「平穏死」 そして「成熟死」(mature death) <p>20 「死」を見据えて、どう生きるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生と死についての断章
<p>1 生命倫理 (bio ethics)の流れのなかで</p> <p>2 医療をめぐる倫理原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律の尊重の原則 ・正義公正の原則 ・善行の原則 ・誠実忠誠の原則 ・無加害の原則 <p>ベルモント(レポート) 3原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人格の尊重 (Respect for persons) ・善行(有益性) (Beneficence) ・正義(公正性) (Justice) <p>3 医師の倫理 ~ヒポクラテスの誓い~</p> <p>4 看護の倫理 ~看護者の倫理綱領~</p> <p>5 医療倫理の必要性 ~延命処置と自然な死~</p> <p>6 現代の医療倫理 ~自己決定権の問題~</p> <p>7 医療倫理の今後 ~倫理委員会の重要性~</p> <p>8 「生命倫理」について2つの考え方(宗教的生命倫理と功利主義的生命倫理)</p> <p>9 「安楽死」(euthanasia) <良き死>とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Thomas More (1478~1535) 『ユートピア』(1516年) ・Francis Bacon (1561~1626) の『学問の進歩』 ・森鷗外 (1862~1922) の『高瀬舟』(大正5年) <p>10 「安楽死」をめぐる判例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋高裁判決(1962年12月22日)・6条件 ・東海大学事件(横浜地方裁判所 1995年3月26日 判決)・4条件 	<p>11 「尊厳死」(death with dignity)とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カレン事件」(1975年)について ・「生前宣言」(生前遺言) (living will)について <p>12 「自己決定権」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「輸血拒否」(1992年)の問題について <p>13 「親権者決定権」の問題</p> <p>14 「インフォームドコンセント」(informed consent)の問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な事前説明と本人の自発的な同意 <p>15 「臓器移植」と「脳死判定」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心臓死」と「脳死」 ・新しい死の定義(1981年「死の定義」の報告書) <p>16 「ターミナルケア」(terminal care)とリビングウィル(living will)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者のQOL(quality of life) ・緩和ケア(palliative care)と倫理 ・延命処置(蘇生措置・心臓蘇生法)と倫理 ・生命維持措置としての栄養補給(経鼻胃管・胃ろう経管) <p>17 「尊厳死」の今後の動向</p> <p>18 「患者の権利法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いのちと人間の尊厳を守る医療のために <p>19 「死」を取り巻く諸問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然死」・「満足死」・「平穏死」 そして「成熟死」(mature death) <p>20 「死」を見据えて、どう生きるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生と死についての断章 						
<p>授業方法</p>							
評価方法	<p>講義への参加態度・レポートなどから総合的に評価する。</p>						
教科書 参考書 など	<p>生命倫理への招待(改訂5版) 塩野寛・清水恵子著</p>						
備考							

授業科目	健康と環境	担当講師	寺山 和幸	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(15)
<p>授業のねらい</p> <p>種々の環境要因によって病気が引き起こされること、また、環境を整えることにより病気の予防や病気の回復が促進されることを理解し、「健康と環境」の学びを看護に役立てる視点を養う。</p>					
<p>授業計画</p> <p>1講：環境とは：環境と人間の相互作用、環境破壊は人間に何をもたらしたか。 2講：環境汚染と健康被害 — 生態系との関わり 3講：内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）、化学物質過敏症 4講：地球環境問題：主として地球温暖化 5講：ゴミ処理問題とダイオキシン — 人類は21世紀に生き残れるか 6講：喫煙と健康：環境との関わり 7講：現代の若者は、何故切れたり、むかついたりするのか：疫学的検証</p>					
<p>授業方法</p> <p>レクチャー、スライド、ビデオ、DVD</p>					
評価方法	試験及びレポートによる				
教科書 参考書 など	毎回、講義用の資料を提示する。				
備考					

授業科目	保健体育	担当講師	鈴木 一央	対象学年	2年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい <p>体力の維持・増進と協調性を養うとともに、それぞれの種目の運動特性を理解し、基礎技術、応用技術、審判法を身につけ、その特性を生かしたゲームができるようにする。 バレーボール、卓球、バドミントンは、将来各々の目標に応じてレクリエーション種目や競技種目として行うことができるため、生涯スポーツとして楽しむことのできる技能を身につける。</p>					
授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス(全般的な授業内容の説明) 2 バレーボール <ul style="list-style-type: none"> ・ オーバー・アンダーハンドパス、サーブ、スパイク(ブロック)の個別練習 ・ アタックレシーブ(2対2、3対3のレシーブトス→トス→スパイク) ・ サーブレシーブ ・ アタック、ブロック時のフォーメーションの説明 ・ ゲームと審判法 3 卓球 <ul style="list-style-type: none"> ・ フォアハンドロングの1本打ち、ショート打ち ・ フォアハンドロング対フォアハンドロング(フォア打ち) ・ ドライブロングの1本打ち ・ バックハンドの練習、ツッツキの練習 ・ サーブ、カットの練習、ルール解説 ・ ダブルス・シングルスでのゲームと審判法 4 バドミントン <ul style="list-style-type: none"> ・ オーバーヘッドストローク(クリア、ドロップ、スマッシュ) ・ アンダーヘッドストローク ・ サービスの練習(ショート、ドライブ、ロングサービス) ・ フットワークとストロークの連携 ・ ルールの解説 ・ ダブルス・シングルスでのゲームと審判法 					
授業方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 準備体操および基礎体力づくり(ストレッチ・ロングプレスを含む) ・ 授業計画で示した内容を一斉練習、グループ練習によって行う。 ・ 授業の前半は基礎技能の練習にあて、中盤以降はゲームを行う。 ・ チーム分けを行い、個々人のチーム内での役割を理解し、チームワークの重要性を認識する。 ・ 整理体操 					
評価方法	技能評価、授業への意欲、グループ内でのリーダーシップなど総合的な観点から行う。				
教科書 参考書 など	なし				
備考	運動シューズ、ジャージ(Tシャツでもよい)を着用し授業に出席することが望ましい				